

令和2年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	網走社会福祉法人 網走福祉協会	代表者	古賀 敏朗	法人・ 事業所の 特徴	網走市向陽ヶ丘の住宅街にサテライト型の地域密着型介護老人福祉施設並びに小規模多機能居宅介護支援事業所を開設運営し、網走市の高齢者福祉、介護の推進、充実に貢献する事を目的とし、平成21年4月にオープンした。 ユニット型個室であり、入所定員18名(9名1ユニット×2) 小規模多機能登録定員、15名(通い定員:最大9名、泊まり利用定員:5名) 「地域密着」とはお年寄りがこれまで過ごしてきた地域での生活、人間関係が継続できること。「小規模」とは、お互いになじみの関係がもてる居場所であること。「多機能」とは、『通って』『泊まれて』『自宅に来てくれて』『将来的に住む』ことが出来ること有機的につながっている事を指します。 介護の内容は、日常生活全般の介護看護、地域・社会活動への参加、ご家族への支援である。 介護の目標は、一人一人に向き合い、気持ちに寄り添うこと。1日の生活がスムーズに流れるように支援すること。家族や地域とのつながりが切れないよう支援し、誰でも立ち寄って頂ける施設環境を作っていきたい。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 向陽ヶ丘レインボーハイツ	管理者	蒲生 正幸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	今後も、新規登録利用者さんや登録利用者さんに対する情報の共有、伝達について必要な情報については書面や日々の記録、会議、ミーティング等を通し情報共有を図っていく。	新規利用者や病院からの退院者に対する情報共有について、会議や書面を通じて確認し、他職種にて共有することができていた。		今後も、新規含む登録利用者に対する情報の共有及び伝達について、必要な情報を書面や日々の記録、会議、ミーティング等を通し、情報共有する。
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	今後も、本人主体性のアクティビティへの参加の促しや取り組みを心掛けていく。行事企画や食事の献立など、利用者さんの意向も取り入れながら、次年度も計画作成に取り組んでいく。	行事参加や食事の場面を通し、本人が自分で選択する機会や食事のメニューにパン食や麺食など利用者の趣向を盛り込む取り組みを行った。新型コロナウイルスの影響もあり、外出や行事内容など利用者の意向を取り入れることが困難なこともあった。		今後も、本人主体での行事企画の参加の促しや実施を心掛けていく。行事企画や食事の献立など、利用者の意向も取り入れる。認知症のため、意思伝達が難しい方には、家族からも本人の好みなどの情報収集を行い参考にしていく。
3. 日常生活の支援	職員として知り得たい情報内容について事前に確認をとり、アセスメントに繋げていく。	会議、書面、記録などを通し、利用者の身体の情報や家族状況、サービス支援に繋がった意向などのニーズについて共有するよう努めていた。		継続して利用者の心身の状態や健康状況の把握及び共有に努め、介護・看護との連携を図っていく。
4. 地域での暮らしの支援	今後も、施設の状態をみながら可能な範囲で地域の行事に足を運んだり、地域との交流や協力体制の継続を図っていく。	新型コロナウイルスの影響により、地域行事の開催が中止となり、地域との交流や行事参加なども自粛する状況であった。		今後も、感染状況や施設の状態を考慮した上で、可能な範囲で地域の行事に参加し、地域との交流や協力体制の継続を図っていく。

5. 多機能性ある柔軟な支援	個々の利用者の状態や家族の状況に合わせてながら柔軟なサービス支援の提供に努めていく。	日々の体調や利用者の状況及び家族の状況、新型コロナウイルスの感染状況も考慮しながらサービスの提供継続を図れる取組みを行っていた。利用サービスについても時間や予定日、状況に合わせて柔軟なサービス支援を行うよう努めていた。		個々の利用者の状態や家族の状況に合わせてながら、小規模多機能の機能を生かした柔軟なサービス支援の提供に努めていく。
6. 連携・協働	地域との会議など、職員が参加できそうな会議については、次年度より担当の振り分けを行うなど職員の負担の軽減を考慮しながら取り組んでみる。	新型コロナウイルスの影響で、地域会議が中止され、会議自体が開催されなかった。		新型コロナウイルスの状況を考慮しながら、今後も地域会議の参加や交流など可能な限り取り組んでいく。
7. 運営	定期的開催されている地域との会議など、介護職員も担当の割り振りを行い、少しでも参加できる機会を検討していく。	新型コロナウイルスの影響で、地域会議が中止され、会議自体が開催されなかった。		新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、地域に根差した関わりや会議等に参加していく。地域の方に利用してもらえるサービス提供に努めていく。
8. 質を向上するための取組み	地域の会議の参加に対する、職員の担当制の割り振りを作り、出来るだけ負担なく管理者以外の職員にも地域との会議に少しでも参加出来る機会を設けていく。	新型コロナウイルスの影響で、地域会議が中止され、会議自体が開催されなかった。		新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、必要な外部研修やスキルアップ、資格取得のための研修参加の機会を設けていく。リモート研修や動画など、IC機器を活用した研修参加の機会の充実も図っていく。
9. 人権・プライバシー	入浴に関しては、同性介助での対応を定着していけるよう次年度の取組みとして職員間で対応の方法を検討していく。日々の記録ファイルの保管場所の統一を図る。	入浴介助においては、可能な限り同性介助で行われていた。利用者の個人情報に関わる管理は、利用者の目に付く場所に置かないなどの配慮がされていた。		入浴や排泄などは、今後も基本的な体制として同性介助での対応への構築に職員間で共通意識のもと取り組んでいく。成年後見制度の内容について学習できる機会を会議や勉強会を通じて設けていく。